



第43号

編集
発行野田市青少年補導員
連絡協議会

事務局 野田市青少年センター

電話 04-7125-2639



中学生も地域の救護活動参加を目指した訓練
＝ 10月3日、東部中学校校庭

防災教育の取り組み (Study Emergency Camp)

野田市立東部中学校 校長 川崎 裕幸



災害を教育活動の一環として考え、訓練しておくことが、とても重要なことだと考えました。

野田市 (東部) 中学校から、災害時には地域の中学生たち (若い力) を必要

地区) でもたくさんの負傷者が、出ることが予想されます。その方たちを、安全な場所へ誘導したり、けが人を担架で運んだりするような力仕事もたくさん発生し、専門的な知識がなくても中学生も救護活動の担い手になれると考えます。

このように救護活動のベース (裾野) を広げるといった意味でも、少しでも中学生を巻き込めないかと考えました。これは単に救護活動の人手を確保したいというだけではなく、自分は役に立つ大切な人材なのだという気持ち、自己有用感の向上に役立つと考えます。

そのためには日頃から防災

実際に、中学生が体験学習の一つとして積極的に地域の防災訓練にも参加してもらえば、地域も安心ですし、学校に対する理解も深まります。これはお互いにとても良いことです。地域と一体となつて防災教育を推進する。災害時には地域の方と協力して救護を行ったり、避難所を運営するという意識を中学生に持つてほしいと思います。

ネット・ゲーム依存とは

周囲の理解とルールづくりが必要

ネット・ゲーム依存について、先日研修を受講し、身近なところで誰にでも起こり得る、という事を知りました。

「物質への依存」、ギャンブルやゲームなどの「プロセスへの依存」があり、ネット・ゲーム依存は後者に当たります。

依存症とはやめたくてもやめられない状態に陥ること、その種類は大きく分けて2種類あり、薬物・アルコールなどの

また、「生活の優先順位がネット・ゲーム優先になる」「時間や金銭の感覚が麻痺する」「睡眠や食事がおろそかにな



ネット・ゲームそのものは悪ではない。どう上手に付き合うか、周囲の理解と一定のルールづくりを。依存で苦しんでいる場合は専門家と相談を。

り、本人の健康を害する」など、依存対象を大事にしすぎること、自分や家族などの生活に悪影響を及ぼす例も紹介されています。

ただ、講師の方もおっしゃっていました。ネット・ゲームそのものの自体が悪ではない」という事です。手先を器用に使う、目標達成や努力・協力、IT・PCに強くなる、などこれからの時代において見限れないメリットもあり、ネット・ゲーム」という媒体やツールと上手に付き合い、周囲の方々も理解してあげる事の大切さも教えられました。

皆さんの周りにもネット・ゲームが大好きな子

どもや大人もたくさんいると思いますが、頭ごなしに「ネット・ゲームはダメ!」という事にはせず、「約束やルール」を決め、それらを守る事の

大切さを伝えて行くことも重要だと感じました。また、大切な人が依存で苦しんでいる際は、まずはひとりで悩まずに同じ苦しみを持つ方々と情

報を共有することも、依存から立ち直る方法のひとつだと思っていますので、「家族会」「自助グループ」などの団体に相談する事も必要だと思います。

自助グループとは、同じような悩みを抱えた人たちが集まり、支え合いながら問題を乗り越えることを目的としています。セルフヘルプグループや相互援助グループとも呼ばれます。

家族会とは、統合失調症、うつ病、躁うつ病などの精神疾患をもつ人を身内にかかえる家族が集まり、同じ悩みを語り合ひ、互いに支え合う会です。

どちらも、ある特定の課題や問題を抱える人々が集まる場です。自助グループはアルコール依存症やうつ病などの当事者、家族会は精神疾患や発達障害などの患者を持つ家族が中心となります。互いに経験を共有し、悩み

を打ち明け、励まし合うことで、精神的な支えを得ることが出来ます。

悩みを持つ当事者やその家族は、問題を抱え込み、社会との関わりが狭まっていく傾向があります。そのため、同じような状況の人たちと繋がることで、社会

と関わりを増やし、孤独感を解消していくことも出来るのです。また、これまでの自分や家族と違う環境や状況の人と関わることで、知り得なかった病気に関する知識や治療法、介護の方法など、様々な情報を得ることができ、悩みの解消へ

自助グループや家族会へ相談を

と進んでいきます。
千葉県内の自助グループ
千葉県断酒連合会・アルコール依存症の本人とその家族を対象としています。
つくし(ちば断酒友の会)・千葉市稲毛保健福祉センター内稲毛区ボランティアセンターなどで活動しています。

千葉県内の家族会
千葉県精神障害者家族会連合会・全国精神保健福祉会連合会(みんなねつと)は、精神に障がいのある方の家族が結成した団体です。

自助グループや家族会の情報は、各市町村の保健福祉センターに集まっていることがあります。悩みがある場合には相談してみてください。

お互いを認め合おう

地域とともに考える人権

10月13日と20日、谷吉・

七光台会館にて、「人権に関するイベント」が開催されました。このイベントは、地域の子もたちや住民に対して、改めて人権の大切さを考えてもらうことを目的とし、

地域全体での交流を深める場として実施されました。当日は、多くの参加者が集まり、活気あふれる催しとなりました。

イベントの開始を飾っ



補導員も人権イベントに参加
＝ 10月20日、谷吉会館

を改めて感じることもできたという声も多く聞かれました。また、イベントの環境として、近隣の小学

たのは、近隣の小学校の吹奏楽部による演奏です。子どもたちが日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい音色を響かせました。吹奏楽の演奏は、来場者たちの心を和ませるだけでなく、子どもたちが共に一つの目標に向かって努力する姿を感じさせ、会場に温かい雰囲気をもたらししました。彼らの演奏を通じて、チームワークや協力の重要性

校や中学校の児童、生徒たちが制作した「人権」をテーマにした作品が展示されました。標語やポスター、習字の作品が子どもたちの手によって丁寧に作られ、それぞれに強いメッセージが込められています。中には「みんな違って、みんな素晴らしい」や「お互いを認め合おう」といった標語があり、子どもたちが人権についてどのように考え、表現しているのかが伝わってきます。

来場者たちは一つひとつの作品に見入る様子で、特に力強い習字の作品は多くの注目を集めていました。これらの作品展示を通じて、子どもたちが人権について考える機会を得るだけでなく、

大人たちも改めてその重要性を再認識することができました。さらに、地域の方々による舞台発表も行われ、イベントを盛り上げる要素の一つとなりました。

第55回県青少年補導(委)員大会

人は誰でも人生をやりなおせる

千葉県茂原市にある茂原市東部台文化会館で令和6年11月9日、第55回千葉県青少年補導員大会が開催されました。

大会では、永年従事された方への表彰や感謝状が贈呈され、また事例発表として、「茂原市の現



このイベントは、地域住民や子どもたちが一堂に会する貴重な機会であり、人権について考えるだけでなく、地域全体で楽しみ、交流を深める場となりました。青少年補

状と補導活動について」というテーマのもと、茂

原市の青少年補導員の方がコロナ禍以降の刑法犯認知件数や犯罪件数が増加傾向にあるという事実と、それに対して具体的な活動や対処の事例を発表されました(写真)。

そして、記念講演として一般社団法人希望への道代表の遊佐学氏による「人は誰でも人生をやりなおせる」という演題の講演がありました。薬物に溺れヤクザとなり生死をさまよう事故を

導員として、こうしたイベントを通じて子どもたちの成長をサポートし、地域との連携を大切にしながら、人権意識の向上を目指した活動が続けていきたいと考えています。

起こし、それでも薬物に依存してついには刑務所へ服役した遊佐氏が、元ヤクザの牧師が書いた本を読み、イエス・キリストに出会って、生かされている意味を悟る。その後少年院出院生たちの自助グループNPOセカン・D・チャンスの活動に参加。2022年には一般社団法人希望への道を設立し、少年院や刑務所から出てきた人たちの社会復帰へのサポートをするまでのお話をしていただきました。

最後に茂原市会長による大会決議文が承認され、大会が終了しました。

7・13中里祭り

川間ブロック

今年も昨年に引き続き中里祭りが川間地区で開催され、多くの人が参加していました。神輿や屋台の周りでは、大人も子どもも楽しんでる姿が見られました。青少年補導員もパトロールに参加し、声掛けや見守りを行いました。

を感じました。

今後子どもたちの安全、地域の活性化の一助となる活動が続けてまいります。

県下一斉パトロール

中央Ⅱブロック

中央Ⅱブロックは7月27日の県下一斉パトロールで、地元の駅周辺を見回りました。

近くの公園やスパーマーケットなど、地域の方

ブロック活動から

の目がなかなか行き届かない所もあります。子どもたちがのびのび生活できるようにするために、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いたします。



夏休みの自主補導等

中央Ⅰ・中央Ⅱ

中央Ⅰブロックと中央Ⅱブロックは、8月3日19時から合同で市内中心部をパトロールする自主街頭補導を行いました。



期的に地域のパトロールを続け、声掛け活動を行っていきます。



関宿花火大会パトロール

編集 後記

みなさ
まに支え
られて、
野田市青
少年補導員連絡協議会
の広報紙「かけはし」は、
今回で第43号を発行す
ることができました。

脱コロナ禍により、
市内の夏祭りには活気
が戻り、子どもたちの

をしています。

また、青少年センター
を事務局として、講演
会、研修会などの啓発

活動や、
街頭パト
ロールなどで青少年に
「ひとこえ」かける活動
を進めています。ご協
力ください。

野田市の青少年補導
員の総数は118名。
市内各小中高の学校か
らPTA推せん2名、
教員1
名、及び
各中学校区から青少年
相談員が1名という構
成です。市内を9ブロッ
クに分けて活動と交流

